

会議名称	第2回 おむつりサイクル・ごみ減量推進会議		
開催日時	令和5年7月14日(金) 15:00~16:40	開催場所	掛川市役所第2委員会室
参加者	検討委員：守屋委員長、東森委員(代理)、山口委員、山崎委員、横山委員 アドバイザー：石川先生、中島先生 コーディネーター：岡田氏 掛川市：久保田市長、都築部長、深田課長及び環境政策課		
<p>1 開会 (15:00) (司会：深田課長)</p> <p>2 挨拶</p> <p>守屋委員長：前回の会議から今日まで、ごみに関するマスコミ報道などを目にしてきた。中でも、ごみ減量に向けて、ごみ袋の値上げについて検討をしたが、市民の理解を得られなかったという事例があった。なぜごみを減らすのか、なぜ分別が必要なのかといった課題の共有が必要と考える。また、生ごみ処理機やごみ焼却量削減に対する助成金、リサイクルにあたりポイント制度の導入などについても検討していかないと、減量化も進められないのではないか。推進会議もそういった視点で取り組んでいきたい。</p> <p>久保田市長：本日は、第2回推進会議にお集まりいただき感謝申し上げます。第2回開催に先立ち、アマタホールディングス(株)や地元企業様とも協定の締結をした。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・7月7日(金)に、中部環境先進5市(TASKI(多治見市、安城市、新城市、掛川市、飯田市))サミットを開催し、環境政策の情報交換を行い、その中でも本会議について報告をした。 ・掛川市のつま恋でap bankというミュージシャンのイベントを5年ぶりに開催。社会貢献活動の一環として、イベントに来た人に使い捨ての容器ではなくマイコップやマイ箸を持参するよう呼びかけている。環境先進都市の掛川市にとって相応しいイベントである。 ・第2回も、それぞれのお立場から忌憚のない議論をお願いする。 <p>山崎委員：所属するエコネットワークキングは、平成13年に設立された環境保全活動を行っている団体である。それぞれNPO法人や、自然農法普及の会などが有機的につながり、環境に良いことや情報交換をしていこうという中で、キエーロやコンポストの普及にも取り組んでいる。掛川市と歩調を合わせて取り組んでいきたい。</p> <p>中島先生：環境省で地域循環共生圏という地域でSDGsを実現する政策や、長野県の副知事として環境政策に関わってきた。全国のモデルになれるように環境政策にかかわってきた経験を活かしていきたい。</p> <p>3 議題</p> <p>(1) 掛川市が目指す資源循環の姿(振り返り) について(資料1)(説明：石山主幹)</p> <p>～ 説明 ～(参考：資料1-1, 1-2)</p> <p>① 掛川市が目指す資源循環の姿</p> <p>② 持続可能な資源循環フレーム</p> <p>石川先生：冒頭の委員長挨拶に、ごみ問題は市民が問題を共有しなければならないという話もあった。掛川市が目指しているレベルは高く、ごみ排出量が全国一少ない中で、さらに伸ばしていくという内容である。市民や事業者の努力や協力も相当なものではないと実現できないレベルであり、2050年やマイルストーンである2030年の目標は達成できない。市民の理解、協力は必ず必要である。</p>			

- ・ 叡啓（えいけい）大学は開学 3 年目であり、実現可能なビジョンを全員参加で作ることを進めているが、掛川市の状況と似ている。紙おむつの分別・収集や紙おむつの中のプラスチック等、紙おむつ原料として使いづらいものをどうするか。ごみ減量全体に対しては、市民の皆様にもっと幅広く参画してもらい皆で仕組みを作っていけると良いと思う。
- ・ 中島先生の資料にある生駒市の MEGURU STATION は市民参画のフックになるのではないかなと思う。地域課題の解決につながるという視点で幅が広く、ごみに関するビジョンを作るにあたり、そういったやり方もあると思う。2000 年頃に、名古屋市でごみ非常時代宣言が出た際に、市民参加型の廃棄物政策をやっていたが、そういったものがないと分別や資源化はなかなか難しく、市民にかなりの負担がかかる。

中島先生：環境省は第 5 次環境基本計画の中で地域循環共生圏（地域レベル）を創造し、環境保全や社会福祉の向上などローカル SDGs の実現を推進している。

- ・ 地域循環共生圏の事例として宮城県南三陸町に注目している。協定を締結したアマタホールディングス（株）が、地域にある生ごみなどの有機的資源を活用し、バイオマス施設で熱利用、液肥などを地域利用するなど循環を行っている。
- ・ 厚労省がこれまで高齢者、子ども、障害者らを縦割りで支援してきたが、「地域共生社会」は、地域づくりと一体になって横串で支援していく概念。掛川市の強みは「生涯学習」と「協働のまちづくり」であり、先進的な都市であると認識している。
- ・ 生駒市の取り組みは福祉の向上と地域循環共生圏を合体させたものであり、資源出しを通じて子どもや高齢者が交流できる拠点になっている。人が集まる場所になるので、農産物等の販売を行ったり、ウェルビーイングの効果がある。資源循環を通じ、人や経済の循環につながっており、掛川市においても、福祉や経済の視点を取り入れて議論いただけると良いと思う。
- ・ 掛川市では、生涯学習センターで紙類の資源回収をやっていたり、まちづくり協議会の活動も積極的と聞いており、市民と一緒に考えていくことが出来ればと思う。
- ・ 長野県の食器リサイクルは、消費者の会の取り組みが県に広がった。市民団体がリユースのイベントを開催、行政は広報・支援等、回収物は多治見の工場に持って行く。資源回収拠点が地域のコミュニティ拠点になっている。

守屋委員長：各地区の代表の方から「分別ができない、指定の日にごみを出してもらえない、不法投棄がある」などの問合せがあり、この会議でさらに負担が増えることへの懸念を相談されている。そういう問題に対して SDGs の視点で、市民にごみ減量について協力してもらうにはどうすれば良いかアドバイスが欲しい。

中島先生：SDGs も地域の理解が進んでいないのが現状である。環境問題を解決しながら地域の人も幸せになるのが SDGs であるため、色々な取り組みを考えてほしい。

山崎委員：掛川市で日本一ごみが少ないのは、ごみ袋への記名制やごみ当番として週に 2 回集積所に出ても文句を言わない等、協働でのまちづくりの精神が根付いている風土があることが大きいと思う。そういったソフト的な面も見ながらハード面を検討していくべきである。共生社会とは個々を認めることである。

東森委員：使用済みの食器は買い取ってもらえないので、循環させていくのは良い取り組みである。ごみの分別や削減を目的に市民へ負担をお願いする前に、市民が楽しく参画できることを考える必要があるのではないかな。例えば、新茶マラソンやつま恋のイベントを、市民

の皆さんにリサイクルやリユース、リデュースを知ってもらえるようにしたり、掛川まつりなどで市外にも宣伝をすることもできるのではないかと。また、ごみ集めとランニングを合わせたプロギングを、掛川市の有志の人が定期的に行っている。犬も一緒に走るプロドギングもある。こういったことも広めながら、本来の目的にたどり着くようにしていけると思う。

(2) 新たな分別を検討する項目について (資料2) (説明: 谷中)

～ 説明 ～ (参考: 資料2-1, 2-2)

① 新たな分別を検討する項目について

② 新しい分別項目における処理スキーム

横山委員: 施設では紙おむつを多量に使うので、常に処理については困難を感じている。前回も申し上げたとおり、他のごみと合わせて産業廃棄物で処理してもらおうが、処理コストは施設にとって負担が大きい。私どもの法人では6施設(子ども関連3施設・老人関連3施設)を運営し、いずれの施設においても紙おむつを使用している。こども園で地域の紙おむつを集めて、利用者の家のものも持ってきてもらい、こども園が使用済み紙おむつの回収に一役買っているというニュースを見た。このような協力は施設側としても今後していけるのではと思った。

- ・使用済み紙おむつは、かなり水分を含んでいて重いため、乾燥する機械を施設に置ければリサイクルにスピード感が出るのではないかと。
- ・石川先生の説明の中で、地域でのリサイクルの輪の中に高齢者施設や子育て施設がどのように関わってきたかが見えなかった。施設も常に地域を意識して、地域の中で役に立ちたい思いはあるが、今までの取り組みの中で施設に関わりを求めたものがあれば教えてほしい。

石川先生: 福祉施設やこども園に協力を求めて資源回収をした事例はあまりない。

- ・シャンプーなどの詰め替えパウチの回収事例においては、神戸市では小売店(76店舗)や行政拠点(10拠点)、公共施設が関わっている。
- ・行政の関わりが深い展開モデルとして、花王とライオンが鎌倉市で、ガールスカウトやNPOの活動の中でイベント的に回収を行っている。ガールスカウトのイベント回収からスタートし、私立の小中学校に子どもが持ってきて、花王とライオンが回収する取り組みをしている。いわゆる大臣認定スキームと整理すれば他の市でも出来るが、有価物と認定するのは難しい。神戸市は有価物認定して、神戸市の事業と割り切っており、小売店も神戸市の事業に協力するものとしてやっている。中間処理、選別保管を神戸市内で実施し、持ち出すところは大臣認定もなく花王が取りに来るようにすれば、他市でもできるのではないかと。
- ・横山委員への回答としては、学校などに協力を求めた事例として鎌倉市で実現している。神戸市だと児童館を拠点にする等を検討中である。横山委員が言っていたように、家庭からの持ち込みに協力してもらえるのはありがたいお申し出。地域と施設が協力し、単なるごみ出しではなく、会話が成立するような場になれば良いと思う。地域のことは地域でやっていく、そんな土壌は掛川市にはあると思うので、同じような問題意識を形にしていけるよう取り組んでいければ良いと思う。

山口委員：行政から目標として掲げられるものに対する市民の意識格差はあると思う。キエーロを提案したことがあるが、意識がある人でないとそれに飛びつかない。掛川の人には地域の人のつながりを大切にするので、発信方法が非常に大事だと思う。

- ・掛川はごみ量が少なく、今以上の目標設定が難しいので、アルミかんやペットボトルなどの品目で糸口を見つけて、継続性出来そうなものには興味が向くと思う。ペットボトルや食器を商店で集めることに昔は抵抗があったが今は普通になっている。そういう方法をいくつか選択肢として示し、誰かが何かに引っかかって、少しずつごみ減量になれば良いのではないか。

中島先生：全体の処理スキームの出口については、新しい技術は良いが、その技術で作ったものが実用化されないと意味がない。紙おむつも資料にも例があるが、鹿児島県志布志市や鳥取県伯耆町で RPF 化や燃料化をしているが、実態はどうなのか、利用度合いやコストの現状を教えてください。

石川先生：鹿児島県志布志市でやっている実証事業も見た中で、ユニ・チャームの担当者に話を聞いた感触から言うと、紙おむつの中のパルプ（紙）と SAP（吸水部）は何とかなるが、最大の課題はプラスチック。外側についている薄いフィルムを水でばらして分けることはできるが、臭気をプラスチックが含んでしまう。製品にしたら気にならない程度にはなるが、加工段階で高熱で溶かす時には出るため、労働環境としてコントロールできるかが将来課題として残るかもしれない。それは RPF にするにも同じ問題があるのではないか。

中島先生：検討時には、良い部分だけでなく実態、課題、コスト含めて整理いただけるとより参考になる。

岡田氏：南部にある生涯学習センターでの資源出しに立ち会ったが、精度の高い分別回収をされており、触れ合い、人とのやり取りがあった。こういう土壌を北部にも展開し、他の地域に先行してやっていけるのではないか。

- ・古紙を出すときの縛り方について、他の地域ではビニールひもや紙ひもなど統一されずに出てきているが、掛川市はすべて同じ紙ひもで統一され、リサイクルしやすい。それは掛川市では当たり前のことなので PR できる。先進的なところは自覚して PR していくべきである。
- ・掛川市の人口レベルで成し遂げられることは、小さな自治体にも検討できる内容と考えられる。掛川市の先進的な取り組みは大きな都市からも小さな都市、海外でも参考になる。
- ・生ごみを燃やせるごみに入れた場合とキエーロやメタン発酵等で資源化した場合の違いとして、1 kg の生ごみを燃やさずに資源化すれば、焼却する場合に必要な化石燃料が不要になるため 1 kg の CO₂ を出さずに済むということ。今後カーボンプライシング等も始まることを見込まれ、1 t あたりの CO₂ の価格が決まってくる。企業が社内炭素価格（インターナショナルカーボンプライシング）として 2 万円～3 万円を設定していることもある。自治体の領域ではまだ先の話だが、1 kg の生ごみを燃やさずに資源化できれば経済効果（1 kg で 20 円程度）があるとも考えられる。こういったことを見える形にして市民とコミュニケーションを取っていく必要がある。
- ・プラスチックについては、法律や石油の取れない日本における資源活用の視点から今後再資源化が進んでいくことを見込まれる。熱量が高いので焼却炉の燃料が少なく済むと

いう一面もある反面、プラスチックの資源化が進むと可燃ごみの焼却のために追加の燃料が必要になることが見込まれる。逆に、生ごみは 8 割以上が水分で、燃やすための燃料が必要になる。使用済み紙おむつも 7 割以上が水分。今回の 4 つの品目は理にかなっているので、将来的な CO₂削減、コスト削減につながる。

(3) 掛川市一般廃棄物処理基本計画の改定とポイントについて (資料 3) (説明: 谷中)

～ 説明 ～ (参考: 資料 3)

(4) 先進事例の視察について (資料 4) (説明: 石山主幹)

～ 説明 ～ (参考: 資料 4)

(5) その他

深田課長: 別途、意見書 (A4 の資料) を配布しているので、皆様のお立場から意見をいただきたい。

・第 3 回おむつリサイクル・ごみ減量推進会議は現場視察も含め日程調整していく。

久保田市長: 今回の内容については、この場以外でもご意見を賜りたい。

・MEGURU STATION については、掛川でも進めていきたい。単なるごみ回収拠点ではなく、市民とのふれあいや福祉的な視点が入るものであり、多角的に考えていきたい。

4 閉 会 (16:40)

—以上—